

## 平成22年度学校評価推進協議会

「生徒アンケートを中心とした学校改善のための学校評価システムの開発」



大分県立大分舞鶴高等学校

### 大分舞鶴高校について

- ・ 今年創立60周年（昭和26年創立）
- ・ 生徒数 960名（男子 510名 女子 450名）
- ・ 各学年8クラス（普通科7 理数科1）

- ・ 強い絆・・・舞鶴魂(Maizuru Spirit)
- ・ 勉学と部活動の両立
- ・ SSH（スーパーサイエンスハイスクール）



校是：舞鶴魂「しまれ、がんばれ、ねばれ、おしきれ」



## 舞鶴高校の特色① **活発な部活動**

全生徒のおよそ**70%**が部活生！

体育部（計20+1）		文化部（計12）	
バスケットボール部 （男・女）	バレーボール部 （男・女）	新聞部	音楽部
カヌー部	水泳部	科学部(地学班)	吹奏楽部
ラグビー部	卓球部	科学部(生物班)	書道部
テニス部(男・女)	サッカー部	文芸部	放送部
ソフトテニス部	空手部	英語部	
野球部	ハンドボール部 （男・女）	家庭部	
陸上部		茶道部	
剣道部	同好会 自転車競技	華道部	
弓道部(男・女)		美術部	

計8つの部が県の国体強化指定に！

3

## 様々な部活動で好成績！



平成22年度 県高校総体 団体優勝 5



**吹奏楽部 県2位！九州吹奏楽コンクール出場**



**科学部(SSH)**



**書道部**

**舞鶴高校の特色② 活気あふれる学校行事**

**1年生教育合宿**



**柏葉祭（文化の部）**

**クラスマッチ（ドラゴンボート）**



**修学旅行（オーストラリア）**



# 舞鶴高校の特色③ SSH(スーパーサイエンスハイスクール)



SSH探究活動



SSH国際情報

**創造性、国際性**を兼ね備えた**高い志**を持つ科学系人材を育成を目指す

# 舞鶴高校の特色③ SSH(スーパーサイエンスハイスクール)



## 舞鶴高校の特色④ 進学実績 躍進 伸びる舞鶴



国公立大学現役合格率**76.5%**は九州トップ！  
難関大・医歯薬合格者数 続伸！

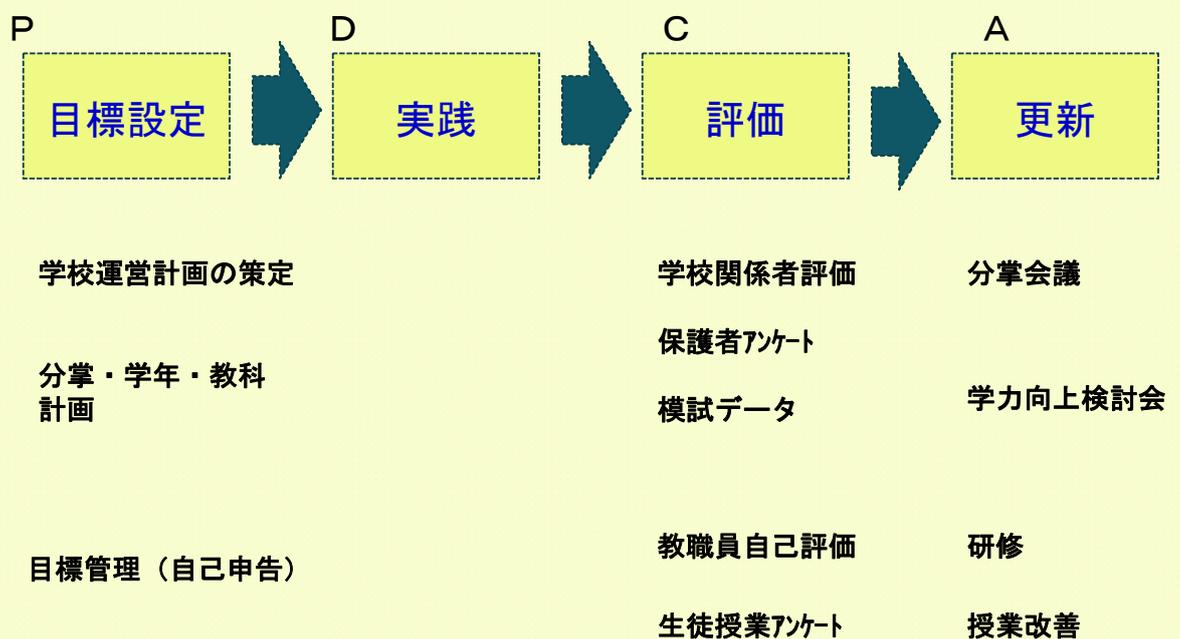
### 本校のミッション

- ① 学校の組織的教育力のもと、**学力の向上**を図り、進路目標を達成する力をつける。
- ② **部活動**をはじめ、特別活動に関する諸条件を整備し、生徒の技能向上を図る。
- ③ **SSH事業**において、多様な評価による成果を積極的に還元し、**理数科の特色化**と発展を目指す。

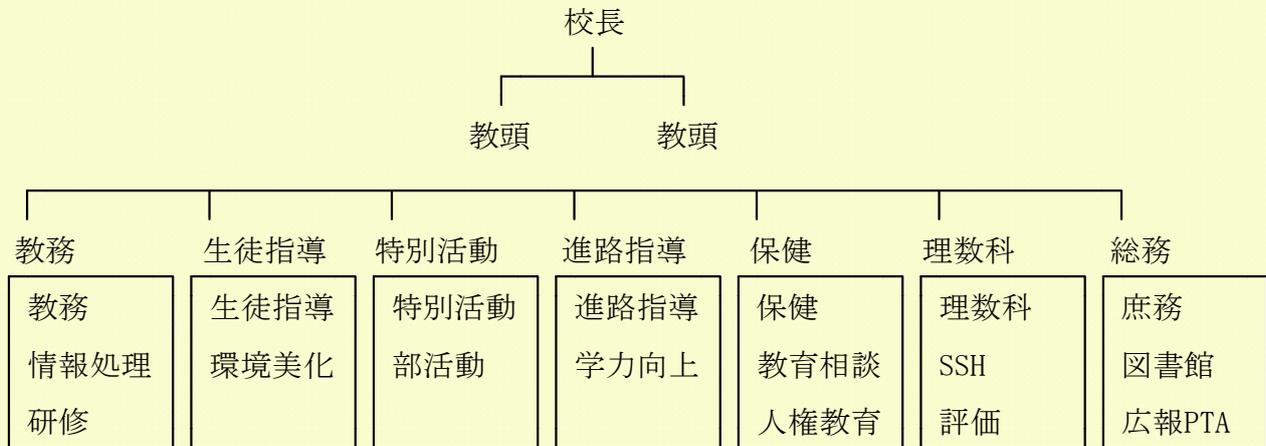
## 平成22年度重点目標

- 1 基本的な生活習慣の確立と自主的・積極的な学習態度の育成を図る。
- 2 教師の実践的な指導力と学校としての組織的な教育力の向上を図る。
- 3 家庭・地域社会との連携を図り、健やかで活力を高める自主的・実践的な活動を通し、豊かな人間性の育成を目指す。
- 4 キャリア教育を視点とした進学力を育成する。
- 5 新たなスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の充実を図る。

## 本校の学校評価



## 実践組織（分掌）



## 研究に至る背景

- 部活動の輝かしい実績とともに、土曜講座、朝講座の導入や授業力向上に向けた取組等により、進学実績もここ数年大きく向上しており、「文武両道を実践する学校」としての評価を地域から受けている。反面、入学してくる生徒の読解力や考察力の低下を感じるとともに、主体的な学習態度の必要性を感じることが多くなっている。
- 高校入試の単独選抜（合同選抜の廃止）、全県一区、併設型中高一貫校の設置等、本校を取り巻く環境も大きく変化している。
- 平成17年度からのSSH指定において、カリキュラム開発はほぼ完成したが、本校が目指す「論理的思考力」「国際的コミュニケーション力」「科学的探究力」など見えにくい能力の育成がどれ程できているのか、また、SSHの効果はどれ程なのかを評価する基準の開発までには至っていなかった。

## 研究までの経緯

### 【新SSHの研究開発】

○見えない能力の評価方法の研究に取り組む。

### 【高等学校の特性】

- ①組織が大きい
- ②教科の専門性が高い
- ③生徒の居住地から離れており、保護者参加の行事が小・中学校と比較して少ない

見えない  
評価しにくい

### 【課題】

○学校評価結果を学校改善へ生かすシステム構築が不十分



**学校改善のための学校評価システムの開発**

## 研究主眼

**教育の成果を的確にとらえる指標の設定**

## 基本方針

- ①「生徒」からスタートする。
- ②全体の取組に広げる。

## 考慮事項

### 【業務の効率化】

- 学校生活アンケートにおいて、昨年度まで複数の分掌で実施していたものを可能な限り1つにまとめる。
- 民間の力（アンケート集計・分析等）も利用する。

### 【人材育成】

- 学校評価システムを教職員の授業力の向上等に活かす。
- ボトムアップの力を有効に活用し、学校運営への参画意識を高める。

## 「学校生活アンケート取組」の概要

- ① キャリア形成に関する実態・学習に対する意識・学校生活の満足度等の項目に関する全学年対象のアンケートを検討し、2回実施する。



- ② ベネッセが①の結果と模試による学力等との因子から集計・分析・資料作成を行い、分析報告会を開く。



- ③ 評価PTや学年会議、職員会議を順次実施する中で分析・情報を全職員で共有しそこに専門家の助言や先進校の視察などで得た知識も参考にし、速やかに改善策を作成し、実行に移す。

## 学校生活アンケートのメリット

- ① 個々の実態及び生徒集団としての実態をもとに、指導の改善を図ることができる。
- ② 集計・実施が効果的に実施できるとともに、各種のデータを専門的かつ多角的な視点で見つめることができる。
- ③ 自分の学校の状況と似たような環境にある学校や目標となる学校との比較が可能になる。

\* S校群＝難関大学50名以上 B校群＝国公立大学200名以上

## 学校生活アンケートの目的

- ① SSH等の指導の在り方及びその成果を検証するとともに、生徒の自己概念の形成、キャリア形成に関する個々の実態を把握する。  
その上で本校生徒集団としての現状認識を共有する。
- ② 生徒の現状に対する認識を共有し、今後の指導方法に対して一層の適正化と効率化を図る。
- ③ 最終的には現在行っている数種類の評価方法に繋げ、効率的にPDCAサイクルが循環するようになることを目標とする。

## 学校生活アンケートの流れ

6月	21日(月)	第1回 アンケート項目の考察 決定
7月	20日(火)	第1回 アンケート実施(45分)
9月	17日(金)	第1回 アンケート分析報告会(ベネッセの講師)
10月	9日(火)	第1回 評価PT会議(発足・今後の日程)
11月	4日(木)	第1回 学校評価にかかわる拡大学年会議
	5日( )	2回 評価PT会議 拡大学年のため)
12月	30日(火)	第2回 アンケート項目の考察・決定
	24日(金)	第2回 アンケート実施(45分)
2月		第2回 アンケート分析報告会(ベネッセの講師)
		第3回 評価PT会議
		第2回 学校評価にかかわる拡大学年会議
		第4回 評価PT会議
3月		分掌会議・職員会議(本年度検証・次年度方針検討)

## ①学校生活アンケート調査領域と分析視覚概略

進路	進路意識の発達段階と進路選択行動	大学進学理由・進学動機
	将来に対する考えと態度	自己概念・キャリア観
学習	学習行動	自宅学習習慣・学習内容
		学習行動パターン
	学習意識・意欲	入試学力との関連
		学校設定科目の成果
生活	学校への帰属と自宅学習習慣	授業に対する態度
		学習動機づけへの反応
	日常生活のとらえ方	学びがいの充実度
		現在の学校生活に対する思い
		自宅学習習慣の定着度
		保護者とのコミュニケーション状況

## ②学校生活アンケート分析報告会

9月17日(金)実施 全教職員対象 90分間

講師＝ベネッセコーポレーション担当者3名

### 概念化した語彙についてデータを作成するときに依拠した調査項目(一部)

A-1 目標	目標の設定	目標が高すぎてよく失敗する/本当にしたいことがわからない(否定指数)
	志の形成	自分の能力・適性がわかる/将来のはっきりした目標がある/進路選択上、重視する事がはっきり
	自己限定	進路意識の発達(6希望以上%)
A-2	自己実現志向	能力・個性を活かしたい/社会での役割を考える/人の役にたつ・社会に貢献
	功利性追求	実社会で役立つ勉強/興味のある事をもっとしたい
A-3	私的価値追求	あわない仕事はしたくない/納得しない進路選択はしたくない/自分の趣味や自由な時間を大切に
	知的学び志向	幅広い教養の修得/専攻学問の研究
	功利的学び志向	専門知識・技術の習得/免許・資格の取得
	学歴獲得志向	社会で必要/安定した職業につくため必要
B 自信	自己肯定	今の自分は本当の自分でない/自分がみじめだと感じる/役立たない人間
	自信	決心したあともぐらつく/ひとりで初めてのことをするのが心配/くよくよ心配する/うわさを気にする
	自立性	困難に直面するとしりごみ/自信がないのであきらめてしまう/だれかに頼ろうとする気持ち強い

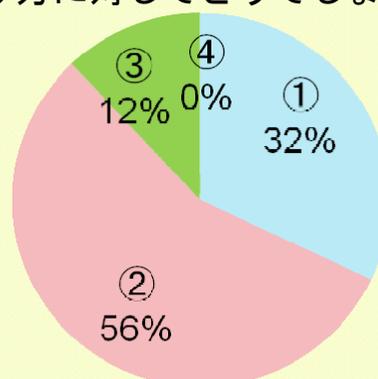
## 分析による本校の「強み」・「弱み」

1. 自我・社会性とも確立度が高く、夢や希望のレベルが高い。2年生で社会型が多い。
2. 学校設定科目の達成レベルが高くなれば、志・自己効力・やる気・授業満足度は高くなる。この傾向は、2年生で典型的に見られる。
3. 学ぶ力と持続力の根源となる、自己効力・自己制御力はともに高く、特に3年生で典型的に見られる。
4. 各学年ごとの強みと弱み
  - 1年生：学習行動、学びがいが高い。学力上位層で「ゆらぎ」が発生する。
  - 2年生：やる気・メンタル・イメージ・学習スキル実践度・定着型の学習行動・宅習時間が低い。学力上位層で「ゆらぎ」が発生する。
  - 3年生：習得型に強く依存しており探究型学習行動への転移が弱い。

## 分析報告会 本校職員の感想

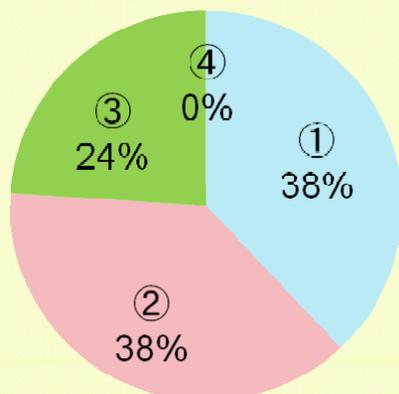
Q 1 今回の研修は今後の指導のあり方に対してどうでしょうか？

① 役立つ	32%
② まあまあ役立つ	56%
③ あまり役立たない	12%
④ 役立たない	0%



Q 1

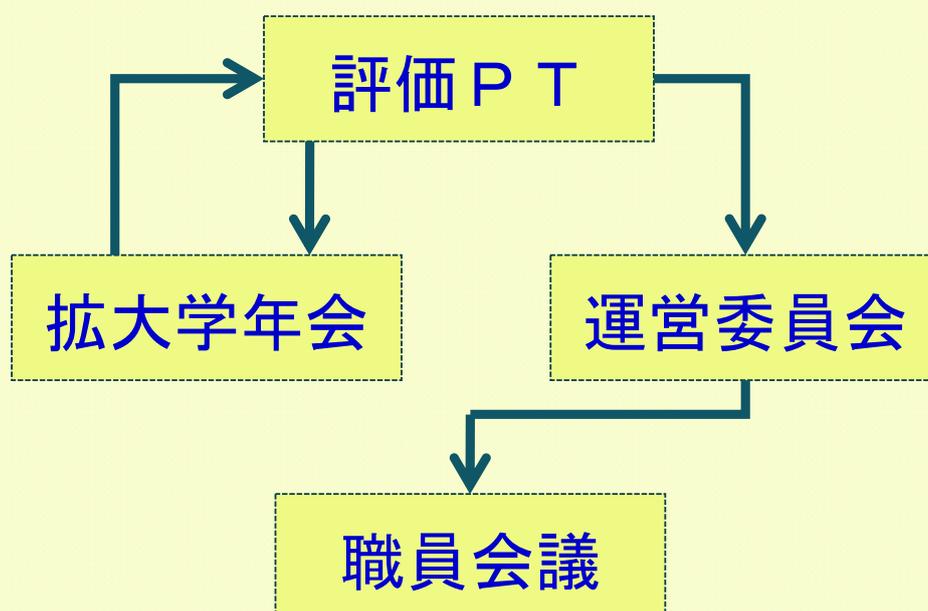
Q 2 今回の分析結果についてどう思われましたか？



Q 2

① 新しい発見があった	38%
② これまで漠然としていたことに確信がもてた	38%
③ データ等が難しくてよくわからなかった	24%
④ あまり生徒の実態を正確にとらえているとは思えなかった	0%

### ③ 評価PT・課題の重点化



## 評価PTの構成

	理数科 (評価)	教務 (研修)	進路指導 (学力向上)	助言者 (学年主任・副)
総括	深見 (国語)	堤 (地歴)		
1年部	山中 (理科)	堤 (地歴)	糸園 (数学)	堀田 (体育) 加藤 (国語)
2年部	阿部 (数学)	鳴海 (国語)	利光 (数学)	秋國 (数学) 高橋 (英語)
3年部	深見 (国語)	津田 (英語)	森 (数学)	山下 (地歴) 安藤 (体育)
助言者 (主任)	橋本 (理科)	酒井 (理科)	佐藤 (国語)	

## 現在までの検討

- |             |            |
|-------------|------------|
| ① 第1回評価PT会議 | 10月19日 (火) |
| ② 拡大学年会議    | 11月 4日 (木) |
| ③ 第2回評価PT会議 | 11月 5日 (金) |
| ④ 職員会議      | 11月 8日 (月) |

## 職員会議資料

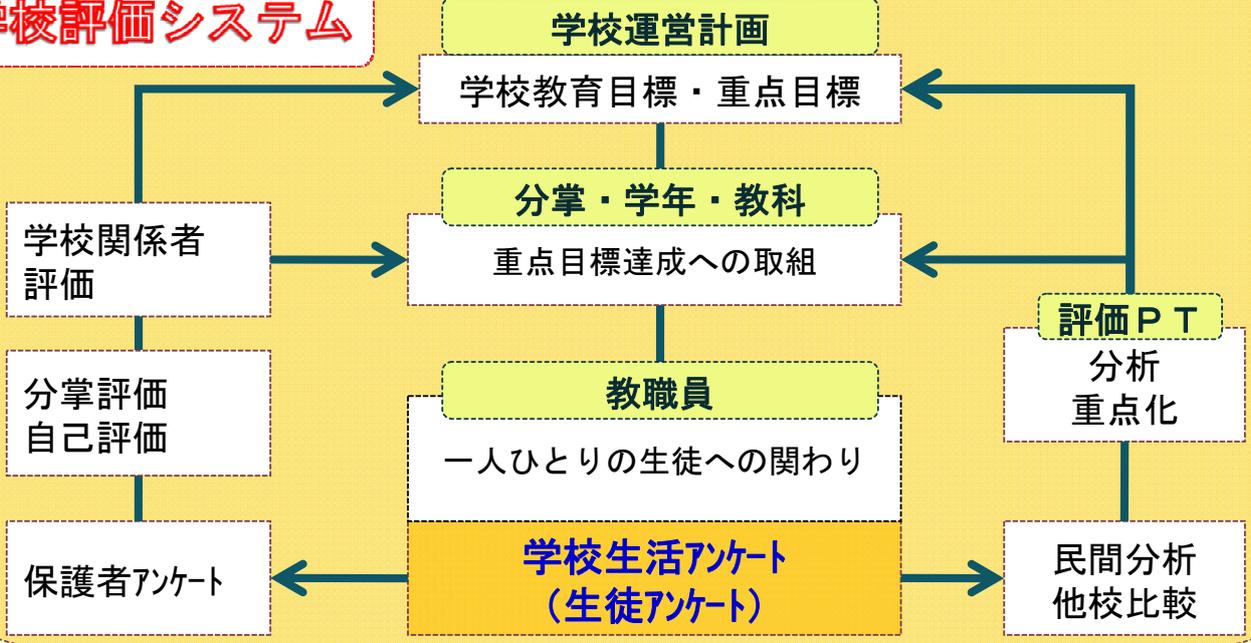
- A 学ぶ力と持続力の根源となる、自己効力(やり遂げた経験／人間的成長実感)・自己制御力(自分の責任／やり抜く)が非常によい状況
- B 自分の高校生活を特徴づけ、刺激を与える最大ものは友達やクラスメートである。
- C 「探究型(自主的に／考え方を学ぶ)・定着型(正解できなかった箇所を、なぜ間違えたのかを確認)」学習が比較的弱く、「習得型(宿題を必ずする)」学習の割合が高い。また、同じく「原因追求志向」・「意味理解志向」・「方略的志向」が弱く、「物量主義」「ドリル主義」傾向が見られる。
- D 授業満足度は高いが、授業に対する適切性と準備性においてA3(偏差値68以上)層で特に低く出ている。逆にA2(偏差値63)層は高い数値であり、授業の焦点が、その層に当たっている。
- E 学びに向かう力の主たるものである自己肯定感(今の自分は本当の自分ではない／自分がみじめだと感じる／役立たない人間)がB2B3(偏差値53～58)が低い。最も安定しているのはA2層である。クラスごとの状況を見ると、標準クラスに壁を感じ、どうしていいのかわからない層が多い。
- F 学習スキルについては、国英ともに全国平均を上回るが、ともに読解力は低い。古典の句法・文法、ライティング技能など訓練によって習得する部分がカバーしている状況。

学校評価システムを有効に機能させるために



教職員の人財育成

# 学校評価システム



授業力向上	専門性向上	意欲の喚起
①相互授業参観 ②生徒授業アンケート ③研究授業 ※ 1 授業力向上	④大学入試問題研究 ⑤教科会議の活性化 ⑥予備校等研修 ※ 2 作問委員会	⑦先進校視察 (ミドルリーダー養成) ⑧研修環流報告会 ※ 3 センター等研修

**MTD (舞鶴魂を持つ教員育成) プラン**



ご静聴ありがとうございました。